

ボストン美術館の至宝展

～ 東西の名品、珠玉のコレクション ～

東京都美術館 2017. 07. 20～10. 09 神戸市立博物館 17. 10. 28～18. 02. 04
名古屋ボストン美術館 18. 02. 18～07. 01



「ボストン美術館」は、1870年に地元の有志によって設立され独立百周年の1876年に開館し、民間の組織として運営されている。収蔵品は「50万点」を超え「古代」、「ヨーロッパ」、「アジア・オセアニア・アフリカ」、「アメリカ」、「現代」、「版画・素描・写真」、「染織・衣装」「楽器」の8部門で構成されている。

本展は、米国・ボストン美術館所蔵の珠玉「80点」を紹介する催事で、日本で同館の幅広いコレクションを総合的に展示するのはおよそ40年ぶりとなる。

コレクションの中でも「古代エジプト、印象派を中心とするヨーロッパ絵画、日本美術の作品」は、特に人気が高く美術愛好家を引きつけているという。

展示作品の目玉は、ヨーロッパ絵画のフィンセント・ファン・ゴッホの《郵便配達人ジョセフ・ルーラン》(1888年)(写真左)と、《子守唄、ゆりかごを揺らすオーギュスティーン・ルーラン婦人》(1889年)(写真中)(何れも部分)の夫婦二人をモデルとした作品が揃って展示されることで大いに注目されている。

日本美術では、喜多川歌麿《三味線を弾く美人図》(1804～06年)(写真右)、古代エジプトでは後頭部に膨らみがあるのが特徴の《ツタンカーメン王頭部》など、名品を揃えたコレクションの粋を余すところなく伝えてくれる。

他の展示品としては、美の展堂「ボストン美術館」のコレクションの選りすぐりの作品で、モネの《睡蓮》やルノアール、オキーフ、ホックニー、日本美術・中国美術・現代美術に至るまで、偉大なコレクターが収集した『ベスト・オブ・ボストン』が紹介されている。